

別紙1 研修科目(時間)及び項目

1 一般課程(計30時間)

	科目	時間	目的	研修内容	※大阪府盲ろう者通訳・介助員養成研修修了者(令和6年度以降)	
					免除	免除後時間数
講義	(1)外出保障	1時間	視覚障がい者(児)の外出について考えるとともに、生活を支える視点や視覚障がい者(児)の外出保障を担うことを理解する。	・外出保障とは ・外出保障の歴史 ・外出保障の現状		1
講義	(2)視覚障がい者の理解と疾病①	1時間	業務において直面する頻度の高い疾病についての留意点を学び、具体的な支援について理解する。	・視覚障がいの理解(視覚障がいによる不便さ、必要な情報)		1
講義	(3)視覚障がい者の理解と疾病②	0.5時間	視覚障がい者(児)の様々な見え方、見えにくさによる不便さについての留意点を学び、具体的な支援について理解する。	・視覚障がいと疾病の理解(様々な見えかた・見えにくさ、主な眼疾患の特徴とその見えにくさについての支援のポイント)	○	0
講義	(4)視覚障がい者(児)の心理	1時間	視覚障がい者(児)の心理に対する理解を深め、心理的援助のあり方について理解する。	・全盲の心理 ・ロービジョンの心理 ・視機能低下の心理 ・障がい発生時期の心理 ・外出時の心理		1
講義	(5)視覚障がい者(児)福祉の制度とサービス	1.5時間	障がい者(児)福祉の制度とサービスの変遷を踏まえ、関係法や制度を理解する。同行援護従業者が外出時に活用可能な制度、および視覚障がい者(児)が利用する関係施設を理解する。	・障がい者福祉の動向 ・障がい者福祉に関連する法律 ・障がい者総合支援法 ・視覚障がいに関する施設等 ・障がい者を対象としたその他の制度	○	0
講義	(6)障がい者の人権	2時間	障がい者の人権について理解を深め、援助方法を学ぶ。	・障がい者の人権についての理解 ・人権侵害の事例		2
講義	(7)同行援護の制度	1時間	同行援護の成り立ちや制度の仕組み、同行援護以外の外出制度等について理解する。	・同行援護以前の外出支援制度の歴史 ・同行援護制度の概要 ・他の外出支援制度との関係 ・同行援護制度の課題		1
講義	(8)同行援護従業者の実際と職業倫理	2.5時間	従業者の役割、派遣の流れ、具体的な業務内容と職業倫理を理解する。利用者の様々な状態に合わせた支援方法や外出に必要な知識を理解する。	・同行援護従業者の業務内容 ・同行援護従業者の職業倫理 ・同行援護の実際(様々な利用者への対応等)	○	0
講義・演習	(9)情報提供	2時間	情報提供の方法や内容を理解し、実際の場面別の情報提供方法を習得する。	・情報提供とは ・情報提供の内容 ・場面別情報提供の実際 ・情報提供時の配慮 ・演習(3題程度)		2
講義・演習	(10)代筆・代読①	1時間	代読・代筆の内容を理解し、実際の場面別の代読・代筆の基本的な方法等を習得する。	・代読(業務における代読、代読の範囲・基本的な方法、留意点) ・代筆(業務における代筆、代筆の範囲・基本的な方法、留意点・代筆できないもの) ・演習(代読1題・代筆1題)		1
講義	(11)代筆・代読②	0.5時間	代読・代筆の内容を理解し、実際の場面別の代読・代筆の具体的な方法を習得する。	・代読・代筆の具体的な方法 代読・代筆におけるプライバシー保護や、代読、代筆を行う環境など	○	0
演習	(12)誘導の基本技術①	4時間	椅子への誘導・階段など、誘導に必要な情報提供と基本技術を習得する。	・椅子への誘導・階段(スロープ、溝などをまたぐ、段差) ※当事者の参加に努めること		4
演習	(13)誘導の基本技術②	3時間	基本姿勢・歩く・狭いところの通過など、誘導に必要な情報提供と基本技術を習得する。	・基本姿勢・歩く(誘導の考え方、あいさつ、基本姿勢、やっつけはいけないこと、歩く、止まる、曲がる、方向転換) ・狭いところの通過、ドアの通過 ※当事者の参加に努めること	○	0
演習	(14)誘導の応用技術(場面別・街歩き)①	4時間	トイレや食事の場面での具体的な誘導方法を習得する。また、実際の街歩きにより、誘導時の留意点や具体的な誘導技術を習得する。	・共通(トイレ、食事) ・街歩き(歩道、歩車道の区別ない道路、天候、踏切、グレーチング、混雑地、様々なドア、様々な階段) ※当事者の参加に努めること		4
演習	(15)誘導の応用技術(場面別・街歩き)②	1時間	病院・薬局、買い物、行政窓口、金融機関など様々な場面での具体的な誘導方法を習得する。	・場面別(病院・薬局、買い物、行政窓口、金融機関、会議・研修、余暇活動、冠婚葬祭) ※当事者の参加に努めること	○	0
演習	(16)交通機関の利用	4時間	交通機関の乗降練習等を通して、移動支援技術を習得するとともに、乗車中の留意点を理解する。	・電車の乗降 ・バスの乗降 ・車の乗降 ・船・飛行機の乗降 ※当事者の参加に努めること ※演習に先立ち、オリエンテーションを実施すること。 ※実際の公共機関等を利用すること。		4
					合計	21

2 応用課程（計6時間）

	科目	時間	目的	研修内容
講義	(17) サービス提供責任者の業務	1 時間	事業所やサービス提供責任者の役割を学び、利用者のニーズに基づいた質の高い派遣がサービス提供責任者の下で行えるようにする。	・事業所の体制 ・事業所の役割 ・サービス提供責任者の役割 ・サービス提供責任者の業務
講義	(18) 様々な利用者への対応	1 時間	利用者の多様化について理解し、重複障がい等の特性を踏まえた外出に必要な知識を学ぶ。	・高齢化、障がいの重度化・重複化の現状 ・高齢の視覚障がい者、重複障がい者への支援の留意点
講義	(19) 個別支援計画と他機関との連携	1 時間	サービス等利用計画に基づき、サービス提供責任者が事業所で策定する個別支援計画や関係機関との連携等について理解する。	・個別支援計画の策定 ・関係機関との連携
講義	(20) 業務上のリスクマネジメント	1 時間	事業所としてリスクマネジメントを図るため、同行援護従業者の派遣にあたり発生可能性がある事故や発生時の管理体制等について理解する。	・事業所のリスクマネジメント ・同行援護従業者のリスクマネジメント ・事故発生時の管理体制
講義	(21) 従業者研修の実施	1 時間	事業所内の同行援護従業者に対する研修の目的や内容等について理解する。	・従業者研修の目的 ・従業者研修の内容 ・従業者の質の向上のための工夫
講義	(22) 同行援護の実務上の留意点	1 時間	同行援護制度の実務上の留意点や他の福祉制度との関係について学ぶ。	・同行援護の制度上の留意点 ・同行援護の実務上の留意点 ・介護保険制度との関係